

# 横芝 ロータリークラブ



## 会報

創立	昭和41年10月6日
承認	昭和41年11月21日
例会日時	毎週月曜 (12:30~13:30)
例会場	中国ダイニング富士屋 (横芝駅前)
事務局	〒289-1732 千葉県山武郡横芝町横芝1519-6
TEL	0479-80-1177 FAX 80-1178
ホームページ	<a href="http://www.yokoshiba-rc.jp">http://www.yokoshiba-rc.jp</a>
Eメール	info@yokoshiba-rc.jp

2006~2007 RI会長ウィリアム・ビル・ボイド 第2790地区ガバナー白鳥政孝 ガバナー補佐菅井直秀

平成19年1月29日発行 NO.1792 第1920例会 会報委員長 森川忠

### ■ 例会報告(平成19年1月26日)

点 鐘	会長 内田裕雄
ソ ン グ	「我等の生業」
会 長 挨 拶	会長 内田裕雄
会 務 報 告	会長 内田裕雄
幹 事 報 告	幹事 花澤英昌
プログラム	会員卓話 小川和好会員 「金融四方山話」

### ■ 会長挨拶・会務報告



こんにちは、1920回例会にご出席頂きご苦労様です。本日は、会員であり、又、京葉銀行横芝支店長でもある小川和好会員から「金融四方山話」と題して、卓話を頂くことになっております。大変有難うございます。

来る2月20日 横芝光町文化会館に於いて開催されるIMの準備状況については、川島実行委員長を中心に進めて参りました。唯今配布した資料は6分区内9クラブに発送したもので、現在、登録料の振込み及び会員名簿、発言者等の報告を待っているところです。

この催しは、ご承知のようにガバナー補佐の主催によるもので、横芝RCはホストクラブとしての責任のもとに、開催に向け必要な諸準備を進め、会場設営、当日の運営進行を行うこととなります。当日の役割は皆様に通知致しました通りで、是非、ご協力の程お願い致します。

尚、当日現地9:00にお集まり頂き準備に入って頂きたいと思っております。後程、川島実行委員長より細部について報告致します。

2月10日茂原ローターアクトクラブ 認証状伝達式にガバナー補佐、ガバナー補佐幹事、会長、幹事4名出席

### ■ 臨時理事会議事録

2007年1月26日(月) 14:30より  
場所 富士屋

議題

- ①新入会員の承認について  
山武市本須賀1428  
行木英夫君

全員一致承認致しました。2月5日の例会で入会式を行います。

### ■ 幹事報告

①例会変更

- ・東金ビューRC  
2/1(木) 19:00点鐘 エストーレホテル  
創立記念例会
- 2/20(木) IM移動例会

②ガバナー事務所より

- ・「拉致被害者支援」の御礼

③ご案内

- ・茂原ローターアクトクラブ認証状伝達式  
平成19年2月10日(土) 受付17:00  
プラザヘイアン茂原にて
- ・2007年国際ロータリー年次大会参加旅行  
2007年6/17(日)~6/20(水)  
ソルトレイクシティ大会

②週報受領

- ・大網RC

### ■ 委員会報告

- ・川島IM委員長より発表がありました。

## ■ 会員卓話



小川和好会員

平成2年から始まったと言われるバブル崩壊後、日本経済は長い間、デフレスパイラルの深淵に迷い込み、過去の負の遺産処理に相当の時間と犠牲を払って来た。

景気の低迷からの脱出には、所謂「3つのK」（過剰債務・過剰労働力・過剰設備）の削減に血眼になって取り組み、歴史上、経験した事のない傷跡を残した。

また、政治の側からは、内閣がそれぞれ短命の内に変わり、この平成不況からの脱出に特効薬を見い出せないでいた。

そして、5年前の小泉内閣の誕生により、それは一気呵成に改善に向かったのである。彼が打ち出した構造改革の具体策は、非常に判り易く国民の圧倒的な理解と支持を得たのである。そして、この内閣を前面から力強く政策面で引っ張った立役者が、竹中平蔵であった。

竹中の思い切った金融政策・構造改革は、血を流す事で新しいフレームワークの創造へと継がり、金融界を中心としてその枠組みが大きく変貌したのである。

所謂、メガバンクの誕生(大手都銀の再編)と莫大な公的資金の投入により、死にたいになっていた日本経済を蘇生させた事は周知の話である。この中には、金融再生法による銀行の自己改革・構造改革も見逃せない大きな要素となっている。

以上、平成不況とそこから脱出しつつある(?) 現在までをザッと振り返って見たが、次は、日本の金融政策(日本では中央銀行である日本銀行が行っている)について検討して見たい。

金融政策は、物価や通貨価値の安定、さらに景気対策の一環として、金融引締・金融緩和を行う政策のこと。

手段は、公定歩合(金利政策)や預金準備率を変更したり、公開市場操作を行ったりする。そして、これらのオペレーションにより、金利やマネーサプライのコントロール、または結果的に為替レート水準等の統制を図っている。

金融政策の最終的な目的は、経済を持続的に拡大させることと言えようが、このために物価上昇率の安定に重きを置き、変動を回避すべきと考えるか、経済成長に重きを置いて物価や通貨価値の安定よりも失業の防止などを優先すべきと考えるかは、考え方の分かれるところである。

1990年代後半から2000年代前半の日本では、景気が悪化し物価の下落傾向が続いたため、日銀は金融緩和を行い短期金利はほぼ0%にまで低下した。

しかし、これによっても物価の下落が止まらなかった為、それ以上の金融緩和を求める声が強くなり、2001年から2006年にかけての5年間、日本銀行の当座預金残高を目標にした量的金融緩和が行われた。日銀尻の水準をそれまでの7~10兆円から30~35兆円に上げた為、マネーサプライは大幅に増加した。

このような経過を辿り、景気によく明るさが戻り、不況の長いトンネルからの脱出を確認した日銀は、昨年3月、量的金融緩和策を転換した。歴史的にも類を見ない異常状態の正常化に向けて歩き出したのである。さらに昨年7月には、景気回復の足腰の強さをGDPデータ等で確認した政策当局は、今度はゼロ金利解除をした。所謂、「金利のある世界」の復活であった。

直近では、先月の17日~18日の日銀金融政策決定会合では、金利の再引上げがあるか否かが、大きな話題となった。

大方の金利引上げ予想に反し、現状維持を打ち出した。賛否両論、今後に残した日銀のあり様が注目されているところである。今回の背景には、政府要人の事前の発言等もニュースソースとして言われているが、日銀の独立性を福井総裁の言質として捉えるなら、金利政策の本質を改めて考える好機になったと思われる。

それでは、これからの日本経済の行く末を展望すると、「いざなぎ景気を超えた」(個人レベルでの生活実感が無い)と言われている景気回復はいつまで続くのか、そして、金利は今後1年間にどのくらい引き上げが実施されるのか、大いに気になる所である。

## ■ ニコニコボックス

小川和好君(卓話をさせて頂きました)  
大竹操君・富一美君(内田年度の1月が無事終わりました)  
小沼孟君(先週例会を欠席しました)

本日計	7,000円
累計	781,900円

## ■ 出席報告



例会日	会員数	出席	MU	%
1月29日	34	32	2	100.0